

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(美術)
／山田 芳明

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

現在は22年度より3カ年の研究計画で科学研究費補助金(基盤研究C)科研題目「造形遊びの創造的行為と教師の役割の関係性に基づく幼小連携授業・保育モデルの構築」が交付されており、本年度は最終年度となっている。そこで、本研究の成果を踏まえて、さらに「造形遊びの指導力」に焦点化し、「児童の問題場面における教師行動のバリエーションと力量」に着目した研究課題に関して3カ年の計画で科学研究費補助金基盤研究Bで申請しようと考えている。

2. 点検・評価

現在の研究の進捗状況を踏まえて、25年度の科研の申請を見送った。26年度に申請を行う予定である。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

定員充足に関しては(1)直接的な目標と、(2)間接的な目標の2点から考えている。

(1)直接的な目標

他大学の教員や、学生間の交流を行う研究会等に積極的に参加し、その場で大学院に進学を希望する学生に本学への進学を勧める取組を行う。

(2)間接的な目標

現在の学部生や大学院生のゼミ生の指導を充実と、学生の学習・研究環境の整備を進めることにより、修了学生が他大学の学部生への本学大学院の積極的な推薦を促すとともに、卒業生が本学大学院への進学希望することを促す。

2. 点検・評価

(1)中間報告の状況に加えて、11月16日・17日に大阪で開催された教育現場の図画工作・美術教育の全国大会、12月7日に東京で開催された東京都図研大会、1月13日に大阪で開催した「全国図工授業づくりユニオン冬の研究会」、2月9日に開催された附属小学校の研究発表会等々に参加し、現場教員、学生棟と懇談する機会を持った。

(2)学部生大学院生のゼミ指導の充実を図った。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

教育活動については、本年度も引き続き学部、大学院共に授業改善に努める。
特に、具体的で実践的な演習を積極的に取り入れることにより、学生が主体的に学習に取り組めるようにすると共に、教員になるための学びのリアリティを高めるように、現場への参観、授業映像データベース等の既存のシステムを積極的に活用する。
学生生活支援としては、オフィスアワーはもとより、授業以外の時間を利用し、学生からの相談に積極的に応じると共に、専修室やゼミ室等、学生の「学びの空間づくり」を継続的に行い充実を図る。

2. 点検・評価

23年度にD204室に設置した大型液晶TVを活用して、24年度は映像資料を積極的に活用した授業展開を行った。また、教師からの提示だけでなく、学生が現場の授業を参観した際に許可を得て撮影した映像をもとにした学生のプレゼンテーション等も取り入れ、学生がより積極的に授業研究に取り組めるように授業改善を行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

(1)美術教育学の研究分野においては、22年度より3年間の計画で科研費を受けている研究について、引き続き研究を進め、研究内容をまとめて、国内外の学会・研究会等で研究発表を行う。
(2)すでに7年間行ってきている、徳島県下の教員並びに、全国各地の教員を集めた「実践者研究交流会」を本年度も開催し、教員の資質向上に関する知見の収集と共に、教育現場への還元を図りたい。
(3)その他、研究の推進のために、科研費等の、競争的資金を獲得につとめる。

2. 点検・評価

(1)研究については、第5回中日驚異市教育學術研究集会における発表に加えて、3月29日に美術科教育学会島根大会においても、発表を行った。
(2)中間報告の状況に加えて、1月13日に大阪の中之島センターの一室を借りて「全国図工授業づくりユニオン冬の研究会」を主催した。
(3)については、特にその機会を得なかった。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- (1) 本年度も引き続き就職委員会、教員免許状更新講習実施委員会等、各種委員会の業務を積極的に行う。
- (2) その他、GP、大学評価、教員養成大学改革の推進等、全学的な事業推進についての委員に関する依頼があれば積極的に協力をを行う。

2. 点検・評価

- (1) 中間報告の通り、就職委員会、教員免許状更新講習実施委員会の職務を積極的に遂行した。
- (2) 教員養成モデルカリキュラムの発展的研究の委員を引き受け、報告書の執筆、大阪や東京で開催したシンポジウムへ出席する等、職務を積極的に遂行した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- (1) これまで同様に、本年度も附属学校からの研究協力依頼は積極的に受けるとともに、自らも附属との連携を深めるように働きかけを行う。
- (2) 「こどものまちづくり推進協議会」、「鳴門市図画工作研究部会」等、鳴門市や鳴門市教育委員会からの委員委嘱や事業協力要請に積極的に応じるとともに、県下はもとより、全国の教育委員会や教育研究団体等からの講演、実技講習の講師・指導助言依頼を積極的に受ける。
- (3) 鳴門市・大塚国際美術館・大学の三者連携事業「地域文化財教育活用プロジェクト」にもとづく「N * CAP」の取組の推進を図る。
- (4) 児童画展の審査員や評議員、民間教育研究団体の運営委員等の委嘱を積極的に受ける。

2. 点検・評価

- (1) 附属小学校の共同研究者として、同校の研究発表会の紀要に寄稿すると共に、分科会の司会等積極的に協力した。
- (2) 鳴門市の絵画コンクールの審査員を行った。
- (3) N * CAPの取り組みの推進を行い、同プログラムが25年度も継続して開催されることとなった。
- (4) 児童画展の審査員や評議員、民間教育研究団体の運営委員等の委嘱を積極的に引き受けた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)